



武蔵一宮氷川神社 銅板屋根葺き替え工事

御鎮座 2500 年
記念事業 第一期工事

- ①本殿
耐震補強工事・銅板屋根
葺き替え工事
工期：令和8年2月19日～
令和8年7月15日
- ②拝殿
耐震補強工事・銅板屋根
葺き替え工事
工期：令和8年6月15日～
令和8年12月15日

所在地
〒330-0803
埼玉県さいたま市大宮
区高鼻町 1-407

■御鎮座 2500 年に向けて銅の輝き再び■

埼玉県さいたま市大宮区に鎮座する武蔵一宮氷川神社。須佐之男命、稲田姫命、大己貴命を御祭神とし、第五代孝昭天皇の御代に創立されたと伝わる古社である。平安時代の『延喜式神名帳』では名神大社に列せられ、武蔵国の一宮として朝廷や武家、地域の人々から篤い崇敬を集めてきた。「大宮」の地名も、同社を「大いなる宮居」と称えたことに由来するとされる。

令和10年には御鎮座2500年という大きな節目を迎え、その奉祝事業の一環として進められているのが、境内建物の耐震補強と銅板屋根の葺き替え工事である。令和7年に建物の現状調査を行い、令和8年2月に着工。まずは本殿、拝殿、舞殿など、御鎮座2500年祭に関わる主要な建物を整備し、その後も楼門や回廊へと工事を展開していく長期計画である。

工事全体を請け負う株式会社山崎工務店の常務取締役・沢崎真弥さんによると、本殿の既存屋根は昭和39年に施工されたものだという。それ以前は檜皮葺きで、約60年前に銅板葺きへと改められた。長年にわたり社殿を守ってきた銅板には、雨漏りを補修した跡やコーキングの跡、部分的な変色なども確認され、御鎮座2500年を機に全面的な更新が行われることとなった。

施工では、既存の銅板と下地板を取り外した後、垂木や小屋組みの金物を補強し、新たな下地板を施工する。その上に、銅板工事を担当する有限会社望月板金の代表取締役・石井太一郎さんら職人が、一枚ずつ銅板を葺いていく。本殿には建物全体を覆う素屋根が設けられ、雨

天時にも作業を継続できる環境が整えられた。一方、参拝者が絶えず、多くの神事や祭事が営まれる神社での工事には、通常の現場とは異なる配慮が求められる。月次祭などの時間帯には作業を止め、音を出さないよう徹底。資材は参拝者との交錯を避けるため境内裏手から搬入し、安全な参拝動線の確保にも努めている。夏季には銅板の強い照り返しや熱への対策も欠かせず、職人たちはこまめな休憩と給水を取りながら作業を進める。

葺き上がったばかりの銅板は、陽光を受けて鮮やかな輝きを放つ。やがて風雨にさらされることで褐色から黒褐色へと変化し、長い年月を経て緑青をまとっていく。こうした色の変化は、銅が表面に保護皮膜を形成し、建物を守り続けている証でもある。

今回の工事は、御鎮座2500年を祝うためだけのものではない。その先の百年、さらにその先の時代へ、歴史ある社殿を受け継ぐための修営である。職人たちの手によって丁寧に葺かれた一枚一枚の銅板が、武蔵一宮の新たな歴史を静かに刻み始めている。



60 年前の銅板の裏に氏名。銅板奉納が行われたのであろう。



右／株式会社山崎工務店の常務取締役・沢崎真弥さん
左／有限会社望月板金の代表取締役・石井太一郎さん